

# 繊維補強セメント系複合材料の新しい利用法研究委員会（JCI-TC-104A） 第1回委員会議事録案

日 時：平成22年6月28日（金）17:00～19:30

場 所：JCI会議室

出席者：金子，国枝，金久保，栗橋，浅井，網野，石原，伊藤，菊田，斯波，塩永，諏訪田，  
瀬古，長井，永井，平田，堀口，前田，室賀，山野辺，渡辺，JCI井上

欠席者：磯，岩波 (敬称略)

資 料：

- 1-1 第1回議事次第および関係資料
- 1-2 研究委員会用資料
- 1-3 委員会名簿
- 1-4 長期性能設計の将来像
- 1-5 JCI自己治癒コンクリート研究集会チラシ

議 事：

## 1. 委員長挨拶

- ・金子委員長より，委員会設立にあたっての挨拶および簡単な概要説明があった。

## 2. 委員自己紹介

- ・各委員からの自己紹介が行われた。

## 3. 委員会設立の趣旨説明（委員長）

- ・金子委員長より，資料に基づき本委員会設立の趣旨説明について，「FRCCの性能設計」，「長期性能」，「新しい利用法」，「材料・構造設計のシームレス化」などをキーワードに説明された。

## 4. フリーディスカッション

- ・各委員の経験などに基づく，繊維補強セメント系材料の現状について，フリーディスカッションを行った。主な内容は以下のとおり。

### <利用法について>

- 法律や政策上の理由によって使用できない場合も多い。
- コストを上回るだけの効果が示されていない。
- 引張だけでなく，圧縮（じん性）に着目した利用法はないか？
- 発注者を説得するためのデータが揃っているのか？
- 粗骨材が入っていないため，コンクリートとして利用できない現状がある。
- より厳しい環境下（例えば塩害）でのセメント系材料に対するニーズは高い。
- 生コンのようなJIS認定が何故できないか？

### <性能評価>

- 耐久性に関して，性能を上回るどころか，普通コンクリートと同程度以上であることを示すところから始めなければならないのが現状である。
- 繊維の分散性を評価することができないか？
- 適用にあわせた試験方法が十分に整備されていない。
- 材料試験結果より得られた構成則を数値解析に用いても，部材の耐荷性能を推定できない場合がある。

<環境>

➤ 繊維補強材料のリサイクルや環境負荷低減について議論を始めた方が良い時期にきている。

#### 5. 委員会の進め方

- ・まずは、新しい利用法 WG（主査：栗橋）、性能評価 WG（主査：金久保）、環境対応 WG（主査：国枝）などの WG を設置して、まずは議論を進める。さらに具体的な検討事項が生じた場合には、その都度 SWG などを設置していく予定。
- ・WG 案は概ね了承されたが、その内容を主査およびメンバーにより詰めていく予定である。大まかな希望を調査の上、主査を中心に WG 活動案を審議し、次回委員会にて議論する。
- ・対象材料の範囲を限定したほうが議論が進めやすいが、まずはセメント系複合材料の範疇にあるものをターゲットとする。必要に応じて、対象範囲を絞った議論をしても良い。
- ・委員会活動のアウトプットとして、試験方法や規格などがあると分かりやすい。WG の活動では、これらの成果も想定している。
- ・スケジュールとしては、全体委員会を 9 月、12 月、3 月頃に行い、全体委員会同日に WG も開催する方針である。

#### 6. 次回開催予定

- ・未定（メール等にて調整）

以上